

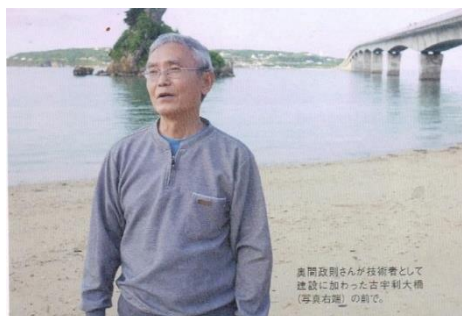
講演会

沖縄列島、空から見た真実

「ドローンで辺野古を記録する意味」

～ハンセン病の差別の歴史と辺野古基地建設の問題について～

沖縄から、奥間政則さんを迎え、ハンセン病の差別の歴史と辺野古基地建設の問題についてお話頂きます。奥間さんは両親が元ハンセン病患者で、数年前に父の手記で差別されてきた過去を知った。「国策が原因の差別で、家族がズタズタだった」差別の構造は同じだと言う。



ネパリ・バザー口会報誌 No.20 より

また沖縄は太平洋戦争の時と同じで捨て石にされ住民監視の「土地規制法」は、まさに子孫の為に平和の為に粘り強く抵抗を続ける人々を排除する目的とした法律であり、それらは一般市民本土の私達の暮らしにも直結している。ドローンの規制も、公共施設(税金で施工)をも監視できないようになる。現在可能な範囲でのドローン撮影の記録を見る機会です。

実際に見た人は、道路や地上から見る景色とあまりに違うその現状に絶句。日本の危機が本土では皮膚感覚で感じられませんが、沖縄を知ることで危機感を共有したいと思います。

沖縄ドローンプロジェクト <https://henoko.jimdofree.com/>

- 【日時】 2021年12月1日(水)
18時半～20時半
- 【場所】 ウィルあいち3F第5会議室
名古屋市東区上堅杉町1
- 【会費】 1000円
- 【定員】 25名要予約
- 【申込】 <https://ssl.form-mailer.jp/fms/1fa028e3723859>
土井ゆきこ huzu@huzu.jp
090-8566-2638